

高美小学校内 TM だより

R8.6.22.NO.10

4年1組の社会の授業におじゃましました。

★ふりかえりから始まる学習★

授業のはじめには、前時のふりかえりが紹介されていました。複数の子どものふりかえりをテンポよく共有することで、一気に学習モードへと切り替わり、教室全体に集中した雰囲気生まれていました。中にはノート1ページ分いっぱい書いていた子も紹介されており、そんなに書けるのかと驚きました。前時まで学習したことについて子どもたちとのやり取りを通して、本時の学習「水はどこから来るのか」へとつながっていきました。

★具体的な資料をもとにした学び★

本時では、水道の蛇口をひねったら出てくる水はどこから来るのか、ロイロノートを活用し、スライドや資料を用いて学習が進められていました。写真や図などの情報が豊富に用意されており、子どもたちはイメージをもちながら内容を理解している様子でした。教科書の内容だけでなく、高安や龍華にある施設についてなど、身近な情報と結びつけて考えることができるよう工夫されていました。一問一答形式のやり取りはテンポよく進み、子どもたちは次々と反応しながら参加していました。

★自分の学びを見つめる工夫★

知識を問う場面ではなく、子どもたちが板書を写すなど学習に取り組む姿勢について、小泉先生は「先生より早く書けたらA」「もうすでに～できていたらS」といった声かけを頻繁に繰り返されていました。そのたびに、子どもたちは「A」や「S」とノートの上のほうに書き溜めていました。子どもたち自身が「自分はできているか」と、取り組み方を見つめなおすきっかけとなっていました。さらに、ふりかえりの場面では書き方の構成が示され、学びを整理しながら次につなげる視点が意識されていました。キーワードも子どもたちの言葉から引き出されており、自分たちの学びとしてとらえようとする姿が見られました。ふりかえりの型と同時に、「B」「A」「S」という基準を子どもたちと共有することで、子どもたちは明確な見通しをもって取り組むことができていました。ノートを提出したら、目の前ですぐ評価してもらえるという点も、子どもたちの意欲につながっているように感じました。

～まとめ～

前時のふりかえりから学習をスタートし、これまでの学びを生かしながら本時の学習へとつなげていく授業でした。ロイロノートや身近な地域の施設に関する資料を活用することで、子どもたちは水道水がどこから来るのかをイメージしながら学習を進めていました。また、「B・A・S」の基準を共有したり、ふりかえりの構成を示したりすることで、自分の学び方を見つめ直す工夫も見られました。学習内容だけでなく、自分自身の取り組み方についても意識しながら学びを進める姿が印象的でした。小泉先生、4年1組のみなさん、ありがとうございました。

